



(A.T.) 英語英文学科 3 年次生

参加期間： 2023 年 3 月 8 日～3 月 17 日 (10 日間)

I. プログラムについて

実習前

- ・事前指導が 3 回あります。1 回目 (12/9) は担当する授業を決めました。そして教案作成に取りかかります。2 回目 (2/8) は課題の提出です。台湾について、台湾と日本についてなど事前に調べたことを他の実習生と共有します。3 回目 (3/1) は 1 人 15 分程度の模擬授業をしました。その際に、山本先生や他の実習生からフィードバックをしていただけるので、教案を修正します。事前指導では、不安に思うこと、疑問に思うことを話することができるので安心です。
- ・現地の先生とのやり取りは 1 回目の事前指導が終わってから始まります。

実習中

- ・教壇実習を行う前に 1 人 15 分程度の模擬授業を行います。先生方からフィードバックをしていただき、教案を修正します。模擬授業は先生方だけでなく、チューターさんも参加します。
- ・教壇実習は 50 分×2、間に 10 分の休憩があります。1 人で担当する場合は 50 分×2、2 人で担当する場合は 50 分×1 です。授業をしていると 50 分はあっという間に過ぎてしまいます。
- ・授業見学は、先生方の授業方法、学生との関わり方を知ることができるので、とても勉強になります。取り入れたいと思った方法ばかりでした。加えて、授業に参加することもあります。特に、会話の授業では学生との交流が多かったです。たくさん話しましょう。

II. 参加希望者へのアドバイス

教案作成、教壇実習について

- ・教案や配布資料はある程度完成させてから台湾に行った方が良いでしょう。教壇実習の前に模擬授業を行い、教案を修正していくのですが、思ったよりも時間がかかります。観光を楽しみたいなら、しっかり準備して行くと良いです。そして、教案や資料を作成する際に意識した方が良いでしょう。3 つあります。1 つ目は、日本に関する内容を取り入れること。日本語を学ぶことに加えて、日本の文化、歴史、アニメなどを取り入れると、学生は興味を持って授業を受けてくれます。2 つ目は、自分が受けたいと思う授業にすること。今まで受けてきた授業を振り返って、楽しかったのはどんな授業ですか？退屈だったのはどんな授業ですか？講義を聞くだけの授業にするのではなく（そのような授業も大事ですが）、教師との会話が生まれる問いかけ、ディスカッション、ペア・グループワークを取り入れることをオススメします。3 つ目は、授業で使用するパワーポイント、音声、動画は複数保存しておくこと。私は USB×2、PC×1 にデータを保存していました。作った資料が消えてしまうと大変ですからね。



生活面について

- ・移動はバスと電車です。その際に、交通系 IC カードを使用しました。コンビニで買うことができます。小銭を用意する必要が無く、コンビニや自動販売機でも使用できるので便利です。
- ・お昼ご飯と晩ご飯は、チューターさんが連れて行ってくれます。チューターさんが事前に調べて予約していることが多いのですが、食べたいものがあれば事前に伝えておくと思いいます。
- ・観光もチューターさんが連れて行ってくれます。有名な観光地を中心に案内してくれます。実は、観光をする際にパスポートや学生証を携帯していると良い場合があります。総統府（総督府）に入るときはパスポート、大学の図書館に入るときは学生証の提示を求められるからです。それを知らなかったのも、私たちは総統府に入ることができませんでした。
- ・体調管理に気を付けてください。特に睡眠はしっかり取りましょう。実習後半になると、教案や資料作成で忙しくなります。私の教壇実習前日の睡眠時間は 3 時間でした。他の実習生の睡眠時間も短かったです。中には徹夜をした学生も…。また、疲れているときは休んでください。私は土日の観光には参加せず、他に残った実習生とホテルで資料作成をしていました。楽しみにしていた九份と淡水に行くことができず残念でしたが、また台湾に行く理由ができたので問題ありません。ポジティブに考えましょう！

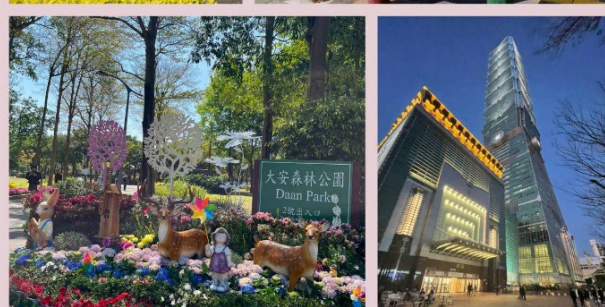
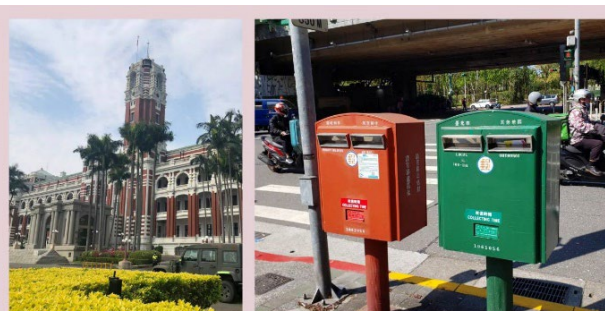
日本語日本文学科以外の学生へ

- ・中には日本語教育専攻ではないため実習に参加しようか迷う学生もいると思います。実際、私も今回の実習に参加するか迷いました。というのも、日本語を教えることに自信がなかったのも来年にしようかなと思っていたからです。しかし、今と来年どちらにしようか考えた末に、参加するなら今しかないと思って申し込みました。勢いも結構大事。参加を考えている方は、日本語教育に関する授業をできるだけ多く取っておくと良いです。教職科目も役に立ちます。

持っていくと良いもの

- ・PC です：模擬授業の際、大学のパソコンでパワーポイントを使用しました。しかし、表記が中国語なので少し扱いづらかったです。自分のパソコンを持って行くことをオススメします。また、パソコンを持っているとホテルでも作業ができます。
- ・折りたたみ傘：私たちが滞在した 10 日間はほとんど雨が降りませんでした。かなり珍しいそうです。急に雨が降り始めることもあるそうなので、持っておくと安心です。台湾に住んでいる方は、リュックの横に常に折りたたみ傘を入れていたので、必須だと思います。
- ・薬：体調が悪くなったときに、飲み慣れている薬があると安心です。ちなみに、台湾のバスはかなり揺れます。ジェットコースターに乗っているのかと思うほどです。急にブレーキをかけたり、バスが完全に止まる前に扉を開けたりします。車酔いしやすい人は注意してください。
- ・ティッシュ：トイレにトイレットペーパーがない場合もあります。
- ・除菌シート or スプレー：コロナの心配もあるので、ご飯を食べる前に。
(何か忘れ物をしたとしても、近くのお店で買うことができるので問題ありません)

国立政治大学日本語指導実習プログラム(台湾)





(M.Y.) 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2023 年 3 月 8 日～3 月 17 日 (10 日間)

I. プログラムについて

今回の実習プログラムは、私にとってとても貴重な経験となりました。コロナ後初となる海外実習ということで不安も多かったのですが、たくさんの人々の支えがあり無事に終えることができました。

このプログラムでは台湾へ行く前に事前指導、台湾に行ってから授業見学と模擬授業、最後にプログラムの集大成として教壇実習を行います。その合間で現地の学生と交流したり、台北の観光をしたりしました。

まず、事前指導では大学の授業でもご指導いただいている先生からアドバイスをいただきながら、「どのような授業内容にしたいか」を一緒に授業を作るメンバーと話し合いながら、自由度の高い授業をすることができました。同時進行で台湾について知識を深めたり、現地で指導していただく先生と連絡を取ったり、担当する授業について詳しく質問したりして準備期間を過ごしました。

また、台北では様々なレベルの授業を見学させてもらいました。

模擬授業は、授業作りで不安に思う部分、確認したい部分を少人数の学生さんに授業として実際に受けてもらい、その意見を参考に授業内容を修正しました。

教壇実習はとても緊張しましたが、実際に日本語を教えるということを肌で感じられ、日本語教師として大切なことをたくさん学ぶことができます。教壇実習が終わった後は、現地の先生にはフィードバックもしっかりしてもらえるので、これからの学びに生かすことができます。

このように手厚い指導をしていただける機会はなかなかないので、やる気があればぜひ経験してほしいプログラムだと思います。また、台湾の学生と接する時間も多く、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

II. 参加希望者へのアドバイス

実習に関してやっておいた方がいい、注意した方がいいと感じた点は3つありました。主に事前指導でのことです。

1つ目は、できる限り教案の内容を詰めて現地に向かった方がいいということです。もちろんどれだけ頑張っても完璧な教案は作れないし、向こうで訂正するところもたくさんあるのですが、事前の下調べや授業で取り扱う教材についてしっかり準備しておく、「せっかくの自由時間の多くを削って修正をしなければいけない」というほど修正が必要にはならないと思います。休日や自由な時間は学生さんがいろんなところに連れて行ってくれるので、できるだけ参加した方が台湾での時間を楽しめると思います。

2つ目は、担当する授業の学生のレベルをしっかりと把握しておくことです。授業を作る際にもどのようなことについて授業をするのか、どのような練習を取り入れるのか、授業を行う時に



はどのような言葉を話すのかなど考える上で、学生のレベルが適切に把握できていないとかなり大変になります。

3つ目は、先生方との連絡を早い時期からこまめに行うことです。二人で一つの授業を作るならばパートナーともしっかりと情報の擦り合わせを行いましょう。そうすることで授業の内容をしっかりと詰めていくことができます。わからないところは先生に聞くと丁寧に答えてくださるので、遠慮せずに質問しましょう。

そのほかの滞在についてのアドバイスは5つあります。

1つ目は、向こうでは現金のほうがよく使ったので、両替をした台湾のお金が必要です。主に食事は現地の学生さんに案内してもらって、「今日の分は何円だよ」とか「このタピオカミルクティーは何円だよ」と教えてもらって、現金を渡して支払ってもらっていました。もちろん病気になった時、特にコロナにかかった場合のためにクレジットカードを準備していくと安心できますが、使用するのは現金のほうが多かったです。お土産をどのくらい買うかによって変わりますが、日本円で3万円から4万円ほど必要だと思います。

2つ目は、服装についてです。台北の気候は朝・夜は肌寒く、昼はかなり暑かったので、温度調節ができるような服が適切だと思いました（私達がいた10日間は特に晴れの日が多かったので、その傾向が強かったです。しかし、例年のこの時期、政治大学の辺りは雨が多いらしいです）。よって、薄めのシャツなどに上着を羽織るのがいいと思います。教壇実習をする際はスーツまではいきませんが、少しカジュアルなものは控えた服装にしました。ホテルの部屋が思ったより冷房が効いていて寒かったので、部屋着は暖かめのものでいいと思います。

3つ目は、学生さんに自分の意向をはっきり伝えるということです。授業の準備や修正のために観光のスケジュールに参加できない場合や、体調が良くない場合などは遠慮せずに伝えましょう。チューターの学生さんがしっかりと対応してくれます。また、ここに行きたいという要望も伝えると考慮してスケジュールを組んでくれます（今回、『日文の夜』という政治大学日本語学科のイベントのリハーサルが見たいと希望を伝えたら、見学させてもらうことができました）。

4つ目は、酔いやすい人は酔い止めを多めに持っていくことです。大体のものは必要ならば現地で調達することができます。しかし、薬類は日本で準備して持っていくのが安全です。その中で酔い止めも用意すると思うのですが、台湾の乗り物、主にバス（大学まで行くのによく使用していて、大学内でも乗ります）は、日本のものに比べると、運転がとても荒いです。また、観光で九份に行ったときは、グネグネと曲がった道が多く、酔い止めを持っていけばよかったとすごく思いました。

5つ目は、チューターさんなどの学生さんとInstagramをよく使いました。仲良くなると「交換しましょう〜」という流れになるので、アカウントを作っておけば繋がりが出来ていいと思います。

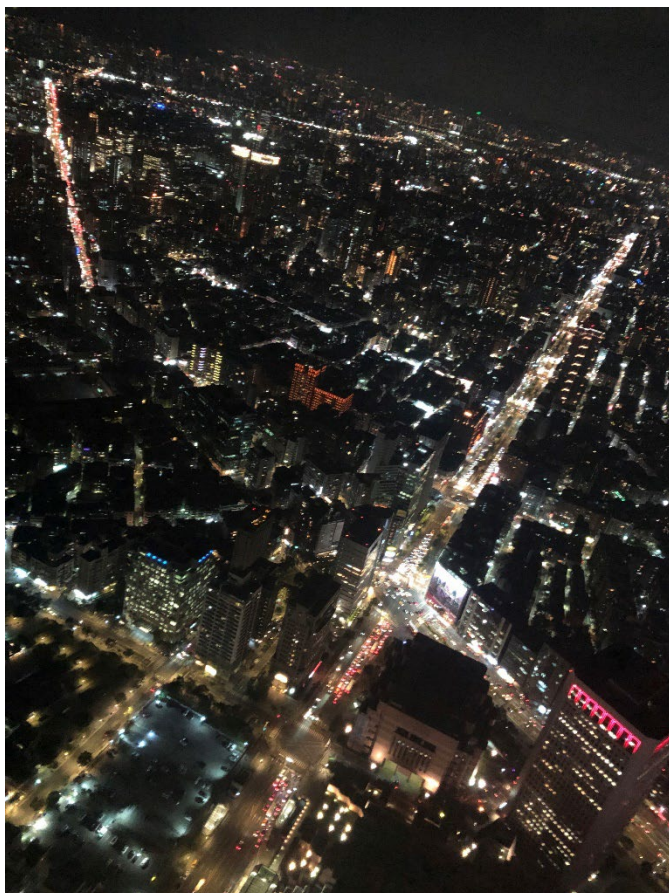
ここまでかなり詳しく書きましたが、大体は何とかかなりです。一緒に過ごすこのプログラムに参加したメンバー、台北で会える学生さん、お世話になる先生方と良い関係を築きながら、楽しい時間を過ごしてください〜！！



【教壇実習の様子】



【101タワーからの夜景】





【九份】





(M.Y.) 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2023 年 3 月 8 日～3 月 17 日 (10 日間)

I. プログラムについて

私は主に教壇実習について述べたいと思います。

これは国立政治大学の学生が受ける日本語の講義を一つ担当させてもらうというものです。私は N1～N2 レベルのディスカッションの講義を一人で担当になり、教案や使用する PowerPoint、配布プリント等をすべて一から作成しました。事前に山本先生にご指導いただき、ある程度完成してから台湾に行きましたが、政治大学の日本人の先生方から実際の台湾の学生の様子や日本語の得意不得意の傾向などをお聞きして、教案を大きく変更することになりました。そのため、私は丸一日観光ができずにホテルで教案を作成し直す日がありました。

はじめての教壇実習ということもあり、わからないことで悩むことも多かったですが、先生方や学生達が本当に親身になって相談に乗ってくださったため大変心強かったです。

このように自分で悩んで調べて作り上げた講義だったからこそ、やり遂げたときの達成感は大きく、自分に自信が持てるきっかけの一つになりました。講義を受けてくれた学生に「お疲れ様、良かったよ。」と声をかけてもらった時は思わず泣いてしまいました。

講義が終わってからも先生方に丁寧にフィードバックをいただけたのも大変ありがたく、またこれから日本語教育を学ぶ上で大きな糧になると思っています。

また、プログラムの中には授業見学もあり、政治大学の先生方が講義をしている場面を生で見ることが出来ます。私は本学で一年次から学んできたため、日本語教育の基礎の部分は頭で理解していたつもりでした。しかし先生方全員がそれぞれ工夫した講義をしておられ、勉強になるとばかりでした。反対に初級の講義などは、本学で学んだことが実践されていることもあり嬉しく感じました。学生のことを心から考えて講義をしていることが伝わり、本当に素晴らしい大学だなと感じました。

10 日間の海外実習プログラムですが、本当にあっという間に終わってしまいました。それくらい毎日充実した時間を過ごすことが出来ました。政治大学ではコロナ禍が明けて初めての日本語教育プログラムだったため、今までの交流とは少しちがった形になっていたのかもしれませんが、先生方や学生チューターの方々は私たちのことを第一に考えてくれており、本当に感謝しきりでした。彼らとは仲良くなる事が出来、今でも連絡を取り合っています。留学で日本に来る時には必ず会う約束もしています。

私自身台湾に何回も行ったことがあり、台湾が大好きなのでこのプログラムに参加しましたが、ますます好きになりました。海外に行ったことがない人もある人も、日本語教育に興味がある人にとってもこのプログラムはとてもいい経験になると思います。

II. 参加希望者へのアドバイス

・プログラム中の自由時間は、平日の授業見学が終わった後と土日なので、観光地巡りをしたいか、学生たちと遊びに行きたいかなどはある程度決めておいた方がよいです。観光地巡りは土日に行くことになると思います。



- 気候の変化が激しいため、服は多めに持って行った方がいいです。